

未来トーク開催概要

日時：2019年5月12日（日）14:00～16:00
 場所：スカイホール大会議室
 参加者：80人
 登壇者：小林正美氏（明治大学教授）
 武田重昭氏（大阪府立大学教授）
 小野健氏（市民ディスカッション代表、ワークショップ参加者）

前半では、公園緑地整備課よりプロジェクトの概要について説明し、武田重昭氏より公園整備が利活用におけるプロセスのレクチャーを受けました。後半では、公園でやりたい事を集めた「夢カード」を使用してディスカッションを行いました。

プログラム

- ①主催者・主賓挨拶
- ②プロジェクト説明
- ③有識者挨拶と事例の紹介
- ④市民ディスカッション
- ⑤今後の予定について
- ⑥閉会のご挨拶

プロジェクト説明



- ・基本コンセプトはヒアリングの分析、東海豪雨の地歴や豊田市が森林を守るために合併した経緯等から森のつながりを感じる、「フォレストレガシーパーク」とした。
- ・昨年度は「緑・川・自然・森林に囲まれた癒し」「スポーツ・文化を向上させる」「家族で楽しむ・若い力を育てる」「多世代・多国籍・他地域のつながりをつくる」「生きがいがづくり・市民が育てる」という五つの公園づくりについて、計5回のワークショップで議論した。
- ・実際にやりたい事をより具体的に議論しながら実践する予定。

武田重昭氏より事例紹介



- ・公園には防災や環境保全といったの存在するだけで生まれる「**存在効果**」、休養や遊びといった利用する事で生まれる「**利用効果**」、地域コミュニティの形成のように敷地の外にまで波及する「**媒介効果**」といったものがある。**市民活動はこの「媒介効果」に強く関わってくる。**
- ・パブリックライフとは、公共空間で**他者と直接的・間接的にかかわりを持ちながら過ごす社会的な生活**の事であり、だれもが気軽に他者とふれあい、刺激を受け、都市のムードを共感するといった経験は都市の持つ本質的な魅力そのものと言える。

- ・行政主体の運営でなく、市民が参画する公共空間。参加の仕方も、**誰がどこまで主導権を握るか**様々な方法がある。
- ・イギリスでは**公園に関わる人たちを評価する**仕組みがある。(PARK FORCE)
- ・公園に来て楽しむ視線と、**何かを仕掛けて楽しんでいる人たちを見る事で喜びを得る**視線がある
- ・10000人の1回より100人の100回。**いつも何かが起きている状態が大切**



市民ディスカッション

担い手	使い手
将来の中央公園において 様々な活動やイベントを 自ら企画し仕掛けていく人々	将来の中央公園において 様々な活動やイベントに 参加、日常的に利用する人々
例)・ブックカフェの出店 ・森づくりのための苗木 育てWS企画 ・運動大会の企画・運営	例)・苗木育てWSへの参加 ・カフェでの休息・利用 ・運動大会への参加



「担い手」と「使い手」に分けた「夢カード」を来場者に配布し、それぞれが公園でやりたい事を記入したものを使用してディスカッションを行いました。
「担い手」とは将来の中央公園において様々な活動やイベントを自ら企画し仕掛けていく人々
「使い手」とは将来の中央公園において様々な活動やイベントに参加したり日常的に利用する人々を指します。



夢カードは「担い手」60枚、「使い手」66枚の計126枚が集まりました。

市民ディスカッションのまとめ



森づくり

・子供たちが楽しめる森づくり、森の図書館 ・どんぐりの苗木の活用→武田氏：家庭の庭で育てる“里帰り制度”
 ・アスレチック：木から皆で育てていく ・生態系をつくる、生き物→生き物と触れ合う機会→一番最初のきっかけの場→矢作川 ・森をつくる→管理のあり方

武田氏：自分ができそうなことノウハウをやってみる→教えてもらえる仲間を増やしていくネットワーク（楽しみ）

・情報が届く公園→駅前で何をやっているかの情報発信、矢作川・都心との連携

武田氏：駅前にインフォセンター、豊田市内の情報の集約

・ペット→愛犬を通じたコミュニケーション→つながりの空間、ドックラン ・キャンプ・BBQ・工作体験→農業体験→育てて食べる体験+色んな職業の体験 ・自由に行ける公園、老人が話し合える区域をつくる。健康づくり。→プログラムを考える人とのコラボ ・家族みんなで楽しめる公園

総括

武田氏：担い手と使い手はグラデーション。自分のノウハウを使う場をつくる、公私混同でも良い。10年後まで息の長い計画・活動が必要

小林氏：担い手、ボランティア

＝市民力。

手作りのボランティアで、人

ためになる公園の使い方が重

“家族で”、“仲間で”、

“一人で” 楽しめる空間



スポーツ

・世界の人とスポーツイベント→多様な人々との交流 ・コーディネーターの設立 ・健康づくり ・分野に特化した人々に教えてもらえる場→幅広いつながり（活動・コーディネート） ・サッカーのパブリックビューイング：公園でのカフェ・クラフトビール→スタジアムとの連携

イベント

・音楽イベントの開催 ・“イベント”+“自分たちの本業” ・文化・伝統の発表の場→実際に見てもらえる場で見せる古いことをもう一度呼び起こす、ステージ→歴史の伝承 ・ステージをつくる 維持管理の方法→都度ステージをつくるという考え方、そういう場の必要性はある

管理

・朝の清掃：自分たちのできることを、ボランティア ・維持管理：草とり、使う前の取り組み

武田氏：掃除が第一歩、自分の庭として扱う

その他

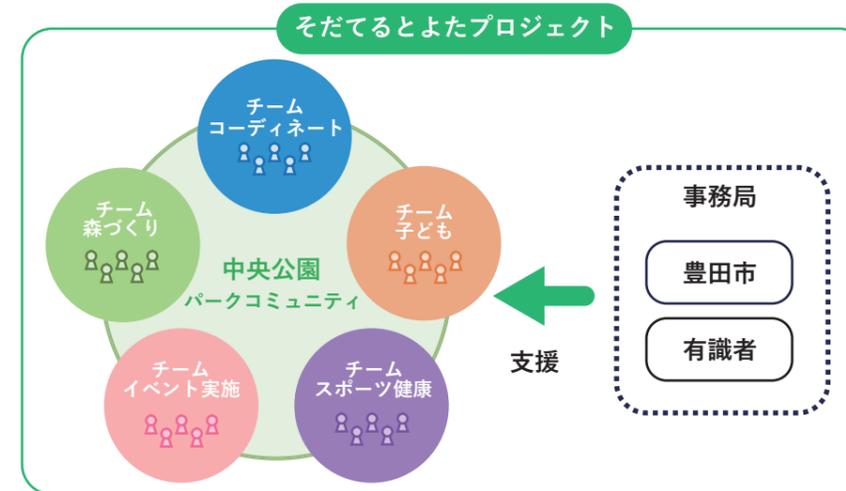
・公園と施設の関係

小林氏：フリーな図書館→媒介となって広がるコミュニティー



今後の予定

今年度は共通の「やりたい事」を持った仲間チームをつくり、それらを3月に実践する事を目指した議論を行い、来年度以降の活動に向けた準備を進める予定です。



「中央公園第二期整備事業」を市民の手で公園をそだてていく「そだてるとよたプロジェクト」とし、パーク（公園）を中心としたコミュニティ（共同体）という意味で、共通のやりたい事を持ったチームの集まりを「中央公園パークコミュニティ」として立ち上げます。

WS開催時期と各内容

今年度はチーム毎の個別ミーティングと全体会を各3回行い、実践の場「中央公園FES(仮)」を3月に開催する事を目指して議論します。

